

書名		新編 新しい書写	2 東 書
項目			
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○楷書と行書の文字を整えて書くためのポイントとして、動きのパターンと形の特徴をインデックスにして毛筆教材の近くに示し、確認できるようにしている。</p> <p>○書写の学習を生活に関連付け、目的や必要に応じて楷書と行書を選択できる力を養わせるために、多様な場面での話し合い活動を取り入れている。</p> <p>○学校生活や社会生活に実際に生かせる手書き文字のよさが、資料の掲載によって伝わるようにしている。</p>		
特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○3段階の学習のてびき（「調べよう」「確かめよう」「広げよう」）で、単元ごとの学習の流れがひと目でわかり、基礎・基本の習得や気づきを育てる構成になっている。</p> <p>○毛筆では、穂先の動きが濃淡のある朱墨で示してある。手本の横に「書くときのポイント」を掲載している。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○学習に関連しているページを示すマークを設け、学年をまたいで学びを広げたり、学習の参考にしたりできるようにしている。また、キャラクターのセリフや「しょしゃのつぶ」による解説によって、課題を意識しながら取り組ませるように構成している。</p> <p>○毛筆の学習の後に、関連した硬筆教材を配置し、両者に関連させながら学習に取り組ませるよう構成している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○①学習の目標と自分の課題を確認する②課題を解決するために練習する③振り返る④活用する・発展、という「学習の進め方」で、流れを説明している。</p> <p>○学習の目標と連動した「振り返ろう」を設定し、自己評価項目に照らし合わせながら、「できた＝○ もう少し＝△」から選び、記入させるようにしている。</p> <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <p>○「生活に広げよう」「生活を豊かにする文字」の単元を設け、手紙や掲示物、職場訪問や防災訓練などの取組を題材に、生活と書写との関連を提示している。</p> <p>○毛筆の学習を通して硬筆では気付きにくい文字の書き方を身に付け、毛筆の学習の後に「広げよう」という硬筆教材を設定し、毛筆と硬筆の関連を図っている。</p>		
色			
資 料	<p>○「姿勢・筆記具の持ち方」を、写真や原寸大のイラストを使って解説している。</p> <p>○巻末の「資料」に「いろいろな書式」「書写テストに挑戦」「漢字の成り立ちと移り変わり」「書き初め」「季節の言葉」、随所にコラム「しょしゃのたね」を写真図版と解説を交えて掲載している。</p> <p>○「常用漢字表」と「人名用漢字表」は楷書体と行書体を併記している。</p>		
表記・表現	<p>○毛筆手本の中心を記号で示している。始筆、送筆、終筆を「トン」「スー」「ピタッ」と言葉とイラスト、写真で分かりやすく表記し、運筆感覚をとらえる指導に対応しているほか、点線・濃淡・穂先の図で示してある。案内役のキャラクターが学習目標や学習の進め方、振り返りを示している。</p>		
総 括	<p>○A Bの判型である。「調べよう」「確かめよう」「広げよう」「学習のふりかえり」という学習の流れが分かるよう工夫されている。また、「書いて味わおう」のページを設け、全学年、国語科と関連した古典教材を取り上げ、伝統文化に触れられるよう配慮されている。毛筆で学習したことを硬筆の学習で確認・発展させるよう構成している。巻頭の「学習のはじめに」で「これから学ぶこと」を示し、「姿勢・筆記具の持ち方」が大きな写真イラストで示している。</p>		

<p>書名 項目</p>	<p>中学校 書写</p> <p style="text-align: right;">11 学 図</p>	
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○始筆・終筆・筆脈を点線や矢印で示し、楷書と行書の違いやそれらに調和した仮名の書き方を言葉によって解説し、理解をうながしている。</p> <p>○楷書と行書を目的や場面によって使い分けられることができるように、楷書と行書を書く場面を設定し、写真による資料も掲載している。</p> <p>○コラム「書写の窓」で、文字の歴史が私たちの書き文字につながっていることを示している。</p>	
<p>特 内 容</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○教材ごとに、「目標」がタイトルとして明確に示してある。「楷書に調和する仮名」に中心線が引かれ、文字のバランスを身につけさせるようになっている。</p> <p>○毛筆では、基本的な点画について、穂先の動きが朱墨と薄墨を用いて示してある。手本のあとに解説を加え、中心や筆順を確認させるようにしている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各学年の取組において段階を追って章立てられ、学習者にねらいを意識しながら取り組ませるように構成している。また、硬筆、毛筆ともに字形を整え、中心を意識して書くことを重視した構成となっている。</p> <p>○写真や図版による手本を提示することで、学習者に自分の字と比較しながら取り組ませるように配慮している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○「学習の進め方」として、①試し書き②練習③まとめ書き④硬筆で書く、という一連の流れを視覚化して説明している。</p> <p>○「振り返って…」では、学習の目標と連動した複数の自己評価項目に照らし合わせ、活動を振り返らせるようにしている。</p> <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <p>○「書写を生かそう」の単元を設け、職業体験や文化祭など学校内外の社会に関わる取組を題材に、生活と書写の関連を提示している。</p> <p>○毛筆の学習の後に「硬筆で書いてみよう」という硬筆教材を設定し、毛筆と硬筆との関連を図っている。</p>	
<p>色</p>	<p>○「書くときの姿勢」「筆の各部の名称・働き」等を、写真を使って解説している。</p> <p>○各学年の最後に楷書と行書の「書き初め」を、巻末の「資料編」には「楷書のいろいろな書き方」「書き文字と活字」を単色で、また、随所にコラム「書写の窓」を写真図版と解説を交えて掲載している。</p> <p>○「漢字一覧表」は常用漢字を行書体で示している。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○毛筆手本の中心を記号で示し、手本と別に中心線やポイントを記号・点線・濃淡・穂先の図で示してある。全ての手本を半紙の原寸大で示している。学習目標と学習の進め方、振り返りが別枠で示してある。楷書の字画の許容についてページを割いている。案内役のキャラクターが学習のポイントを示している。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○B5変型の判型である。毛筆の主たる手本を見開き2ページで示している。学習の目標や振り返りのポイントを簡潔に示し、毛筆の学習で学んだことを硬筆で確かめ、硬筆の学習に生かすように構成している。また、書写の学習をどのように生活に生かすかは、3年の学習でまとめて取り組ませる構成になっている。「書写の窓」で観賞ページや発展的な内容を紹介している。書き初めの手本は、各学年の最後の教材として別々に掲載している。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○B5変型の判型である。毛筆の主たる手本を見開き2ページで示している。学習の目標や振り返りのポイントを簡潔に示し、毛筆の学習で学んだことを硬筆で確かめ、硬筆の学習に生かすように構成している。また、書写の学習をどのように生活に生かすかは、3年の学習でまとめて取り組ませる構成になっている。「書写の窓」で観賞ページや発展的な内容を紹介している。書き初めの手本は、各学年の最後の教材として別々に掲載している。</p>	

<p>書名 項目</p>	<h1>中学書写</h1> <div style="float: right; text-align: right;"> 38 光 村 </div>	
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「字形の整え方」と「文字の大きさと配列」のポイントとなる事柄を、書き込むことで理解度を確認しながら学習する構成になっている。 ○目的や必要に応じて楷書と行書を適切に使い分けさせることができるように、写真や絵を用いて示し、理解が深まるようにしている。 ○言語生活を豊かにするためのコラムが掲載され、手書き文字のよさを伝えるための学習や生活に役立つ資料を写真や図版によって示している。 	
<p>特 内 容 色</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに「目標」を示している。「なぞり書き」や書き込み式の箇所を確認することによって、文字のバランスを確認させるようになっている。 ○毛筆では、点画の種類と筆使いについて、筆圧や穂先の動きを濃淡のある朱墨で示している。毛筆で学習した筆使いを生かして、硬筆に発展できるような構成になっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の取組において段階を追って章立てられ、ねらいを意識しながら取り組ませるよう構成している。また、教科書に文字のポイントを記入させたり、手本を見ながら練習したりする欄を設けることで、考えながら習得させるよう構成している。 ○巻末の資料で、習得した内容を発展させるための手本や、手紙の書き方、新聞の書き方など生活において活用させる機会を設けている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「目標（学習の見通しをもつ）」→「学習の窓（学習・活動に取り組む）」→「学習を振り返る（次の学習に生かす）」という「学習の流れ」をわかりやすく示している。 ○「学習を振り返る」欄は、「できた＝○、もう少し＝△」を書き込めるようになっており、学習の目標と連動した自己評価をすることができ、学習の達成度がわかりやすい。 <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○例文に古文を引用しているところがあり、国語で学習したことを書くことによって、発展させる構成になっている。 ○毛筆の筆使いで学習した後、「学習したことを生かして書こう」欄で、硬筆の練習をすることにより、毛筆と硬筆の関連を図っている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くときの姿勢」「筆記具の持ち方」等を、写真を使って解説している。 ○巻末の「資料編」には「日常の書式」「活用のヒント」「書写事典」「書き初め」を、また、各学年の単元末を中心に文字や書に関する「コラム」を写真図版と解説を交えて掲載している。 ○「常用漢字一覧表」「部首別行書一覧」は楷書体と行書体を併記している。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○毛筆の手本には、△印を上下に置き、中心を示している。「点画の種類と筆使い」で、筆圧を「3の力、2の力、1の力」と表記している。「漢字の筆使い」では、「始筆『トン』、送筆『スー』、終筆『トン』」と表記している。学習目標と振り返りを別枠で示し、その他のポイントは、案内役のキャラクターが示している。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○B5の判型である。手本は見開き2ページの構成で、右ページでポイントを押さえ、左ページの手本で、毛筆に取り組めるようになっている。「学習の窓」で学習のヒントを示し、基礎・基本を身に付けさせるようにしている。「コラム」では、文字の歴史、季節の言葉を書いて味わう、デザインと文字といった書写に関する発展的な内容を取り上げている。「日常の書式」「活用のヒント」では、生活や各教科の発展学習の内容を掲載している。 	